



## 脳疾患。関西医大の頭脳が挑む、

### ■ 関西医科大学附属病院

TEL.072-804-0101 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/  
〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1  
地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局)  
TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861



### ■ 関西医科大学総合医療センター

TEL.06-6992-1001 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/takii/  
〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15  
地域医療連携部 病診連携課  
TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488



### ■ 関西医科大学香里病院

TEL.072-832-5321 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/kori/  
〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45  
地域医療連携部 病診連携係  
TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988



### ■ 関西医科大学くずは病院

TEL.072-809-0005 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/kuzuha/  
〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町4-1  
地域医療連携課  
TEL.072-809-0013 FAX.072-809-0022



### ■ 関西医科大学天満橋総合クリニック

TEL.06-6943-2260 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/temmabashi/  
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル 3階)  
TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827



### ■ くずは駅中健康・健診センター

TEL.072-809-2005 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/kuzuhaekinaka/  
〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町14-1 (京阪くずは駅ビル2階)  
TEL.072-809-2005



## INDEX

### 巻頭 特集 脳疾患に対抗する、関西医大の頭脳

#### ■ 附属病院

新任教授に聞く 八木 正夫 06  
新任センター教授に聞く 山門 浩太郎 07

#### ■ 香里病院

新任部長に聞く 塚口 裕康 12  
新任医長に聞く 前田 敦史 13  
四十万谷 貴子 14

#### ■ 天満橋総合クリニック

医長に聞く 高橋 彰子 18

#### ■ くずは駅中健康・健診センター

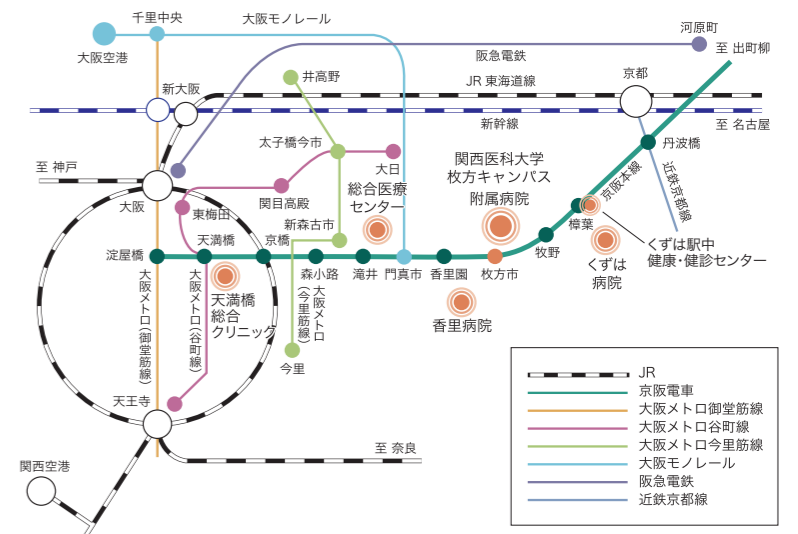
理事長特命教授に聞く 木村 稔 19

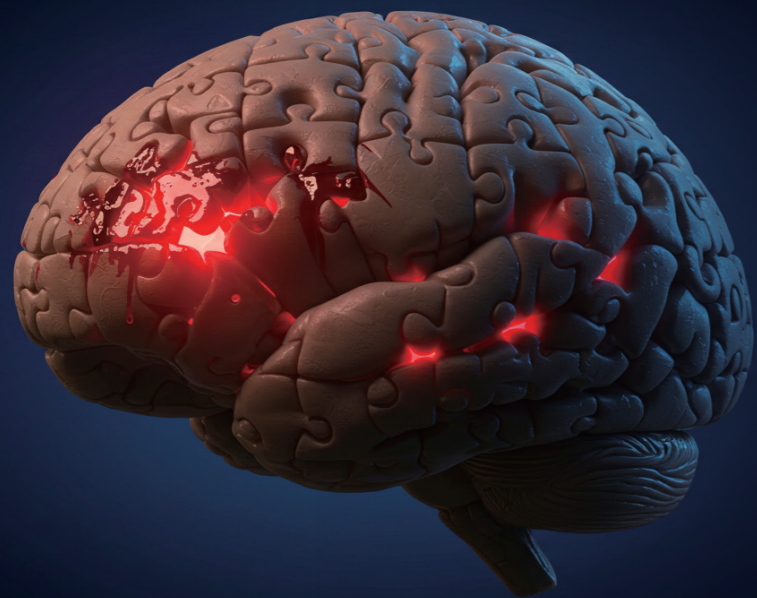
#### ■ 総合医療センター

新任部長に聞く 吉村 晋一 08  
新任センター長に聞く 豊田 長興 09  
診療部長に聞く 齊藤 卓也 10  
新任部長に聞く 岡田 隆之 11

#### ■ くずは病院

新任医師に聞く 山下 裕己 15  
肩関節外来を支えるリハビリテーションスタッフ 16  
・作業療法士 平岡 あかね ・理学療法士 今田 尚希  
・作業療法士 吉見 円花 ・理学療法士 山口 拓郎  
・理学療法士 金澤 俊介





# 脳卒中



脳卒中手術



附属病院脳卒中センター 集合写真

■ **脳卒中センター**

附属病院と総合医療センターに設置された「脳卒中センター」では、脳神経外科や脳神経内科の専門医、看護師、治療後の社会復帰に向けたリハビリに関わるPT/OT、在宅療養をつなげる社会福祉士（医療ソーシャルワーカー）、管理栄養士、訪問看護師など、様々なプロフェッショナルがそれぞれの頭脳を持ち寄って、脳卒中の治療と治療後の回復だけでなく予防まで積極的に取り組んでいます。

治療面では、発症から治療までの時間が極めて重要な脳卒中に対して、24時間態勢で診療体制を展開。梗塞に対するtPA静注療法やカテーテルによる脳血栓回収療法、出血に対する開頭血腫除去術や内視鏡下血腫除去術、開頭クリッピング術やカテーテルによるコイル塞栓術など、ありとあらゆる手段で治療に挑んでいます。

また、発症してからの治療・回復にとどまらず、発症する前の予防にも注力。基礎リスクである高血圧の改善や食生活の見直し、運動習慣の提供など、集学的な予防を提供しています。



総合医療センタードクターカー



特集

## 脳疾患に対抗する、 関西医大の頭脳

### 脳疾患の早期発見・早期介入・予後支援のために 関西医大の頭脳はいかに戦っているのか

脳に関する疾患は頭痛や認知症、脳腫瘍などがありますが、日本人の死因4位にランクインしているのが脳卒中。働き盛りの40〜50代で死因のピークを迎え、続いて80代以降にもう一度頻発するようになります。死亡率としては全体の1割前後ですが機能面での予後不良が頻発し、寝たきりの原因となる疾患では1位とも言われています。そのため、社会保障費の増大が危険水域に達している我が国において、社会政策的に対応が求められている疾患のひとつです。こうした状況を受けて2018年には、脳卒中循環器病対策基本法が成立。脳卒中そのものの治療だけでなく治療介入までの時間の短縮化、治療後の社会復帰、周囲へのサポートなど、総合的な対策の実現を掲げています。

一方、認知症についても超高齢社会の進行に伴って年々患者数が右肩上がりに増加。2025年には高齢者の5人に1人、約700万人が認知症を発症すると言われています。また、認知症は介護が必要となる疾患ランキング1位と、脳卒中同様周囲のサポートが非常に重要です。しかし、徘徊、他害といった外部への影響だけでなく、せん妄や被害妄想、物盗られ妄想などときには介護者を攻撃してしまうなど、負担が大きいことも見逃せません。そこで国も2024年に認知症基本法を制定し、認知症患者やその家族が安心して暮らせる社会の実現に向けて、様々な取り組みを推進しています。

脳卒中と認知症。これら2大脳疾患はどちらも脳の病気という点以外にも、介護負担や医療費負担など周囲への影響が大きい点、国が本腰を入れて対策に乗り出した点など、共通項が多く見られる疾患です。今回の「つなぐ」では、本学の頭脳がこれらの脳疾患に対してどのような対応を取っている、疾患の早期発見・早期介入から社会復帰までどのようにサポートしているか、ご紹介いたします。



附属病院



総合医療センター



**つまり！**  
**センター化による対応**

本学では脳卒中と認知症に対して、附属病院と総合医療センターにそれぞれ「脳卒中センター」と「認知症予防センター」を設置。診療科だけでなく職種の垣根を越えて、脳疾患の専門医やコメディカルが頭脳を結集し、現場での治療展開はもちろん診療データの検証、疫学的調査の実施、社会復帰のサポート、家族への支援など、多角的総合的に脳卒中・認知症へ対応しているのです。

# 認知症



### 救急車受け入れ件数推移

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
件数	196	236	224	224	261	272	291

一般社団法人  
**日本脳卒中学会**  
 The Japan Stroke Society

## 附属病院は日本脳卒中学会認定「PSCコア」施設

関西医科大学附属病院は、日本脳卒中学会が高度な脳卒中治療に  
 確実に継続して提供できることや、確かな腕を持った医師が  
 在籍していることを認めた「PSCコア」施設です。

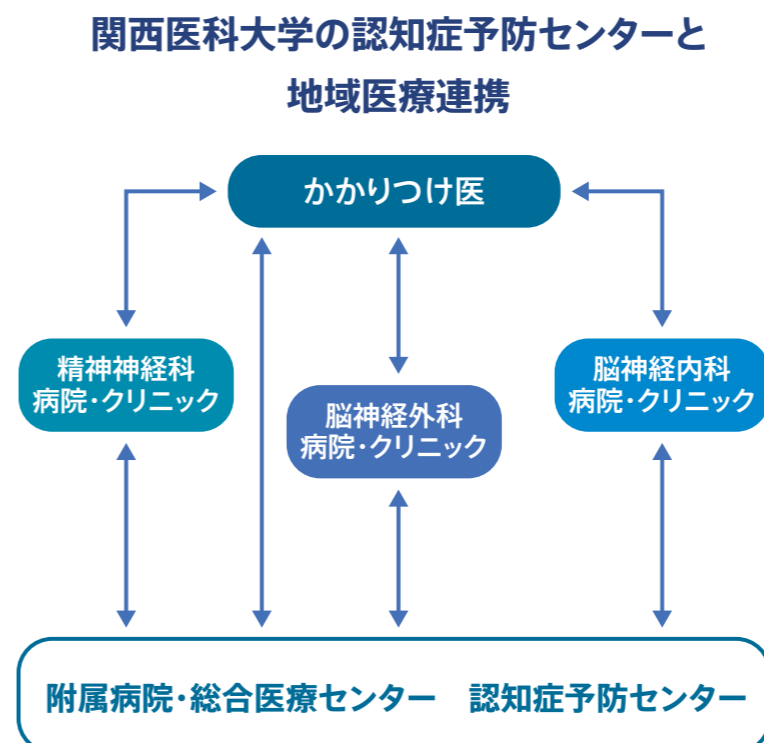
### 脳卒中診療件数推移

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
件数	296	256	304	307	337	341	365

**PSC  
 コア認定  
 5条件**

- ①一次脳卒中センター(PSC)※に認定されていること
- ②日本脳神経血管内治療学会の脳血管内治療専門医と3学会認定の脳血栓回収療法実施医が合計して常勤3名以上であること
- ③血栓回収治療実績が年間12例以上あること
- ④自施設において24時間365日血栓回収治療に対応可能であること
- ⑤脳卒中相談窓口を設置すること

※PSCとは、「一次脳卒中センター」のことで、rt-PA(アルテプラゼ)を用いた脳梗塞治療を24時間365日実施できると、日本脳卒中学会が定めた施設のこと。



アミロイドβを標的とし、体内の免疫機能を利用して除去を促すことで神経細胞の障害を抑え、認知機能の低下を緩やかにすることを目的とした最新かつ革新的な治療法、抗アミロイドβ抗体治療が登場した認知症。関西医大では、附属病院と総合医療センターに設置した「認知症予防センター」において、この最新治療法を積極的に展開しています。

同センターでは脳神経内科と精神神経科、放射線科の専門医や看護師、地域医療連携スタッフ、医事課スタッフの頭脳を集め、神経心理検査、MRI、SPECT、アミロイドPETなどの充実した検査

## 認知症予防センター開設

体制を整え、早期診断と適切な治療開始を実現しています。

初回投与は入院(1〜2泊)で安全性を確保しつつ実施し、2回目以降は外来での継続投与となるため、無理なく治療を続けることが可能です。また、治療開始後も医師や看護師、薬剤師、リハビリスタッフなど多職種が連携し、患者や家族の生活を支えるための万全のサポート体制を構築しています。認知症の検査、抗医薬品治療に興味をお持ちの方、ご希望される方は、ぜひお気軽に認知症予防センターまでお問い合わせください。

### 脳ドック やっています

附属病院と総合医療センターでは、大学病院の高度な設備を駆使して第一線で「脳」の診療に携わる医療従事者がチームを組んだ、脳のための総合検査「脳ドック」を提供しています。もちろん、日本脳ドックガイドラインに準拠。脳MRI検査と同時に認知機能の検査や脳神経内科専門医師による診察も行い、被験者の「脳健康」を様々な角度から徹底的にチェックして、早期発見だけでなくリスクの抽出、発症予防の方針まで立てることが可能です。気になる患者がいましたら、ぜひご紹介ください。

### 香里病院・くずは病院と脳疾患

香里病院では、附属病院の脳卒中センターから亜急性期の脳梗塞患者を積極的に受け入れており、リハビリテーション科と連携してリハビリ加療を提供しています。また、頭痛や麻痺を見逃さず、髄膜炎や脊髄炎などの診断・治療までをスムーズに連携できるよう注力。夕方診療では、学校や仕事帰りに片頭痛へ最新の皮下注射導入を簡単に行うことができるのが強みです。今後は認知症領域での連携を深め、抗アミロイドβ抗体薬投与後の長期フォロー態勢を構築していきます。

くずは病院

くずは病院では、脳卒中後リハビリとして上肢機能や歩行能力、摂食嚥下機能に対する専門プログラムを展開。電気刺激療法やロボット支援機器を活用したリハビリテーションも推進し、りはまる(XR機器)を活用した身体機能・認知機能トレーニングを導入することで、モチベーション向上と効果的なリハビリを両立しています。また、痙攣(筋緊張亢進)に対するボツリヌス療法、短下肢装具等による動作・歩行支援のための装具外来など、様々な角度で社会復帰を支援しています。

香里病院





New Professor Interview

# 耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科 新任教授に聞く

関西医科大学附属病院  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任教授

## 八木 正夫

Yagi Masao



このたび耳鼻咽喉科・頭頸部外科の主任教授に就任いたしました八木と申します。地域の医療機関の先生方には日頃より患者さんのご紹介・逆紹介を通じて大変お世話になり心より感謝申し上げます。

私が耳鼻咽喉科頭頸部外科医の道を志したのは頭頸部に集中する脳神経への関心からでした。手術では頭頸部外科の領域に惹かれつつ、聴覚や平衡覚の領域にも興味を抱き、ミシガン大学のクレスグ聴覚研究所へ留学しました。現地ではワイルズベクターによる遺伝子導入を用いた感音難聴の治療研究に従事し、帰国後は耳鼻咽喉科頭頸部外科の全領域にわたる診療経験を積みながら専門性と実践力を培ってまいりました。

当院では多くの頭頸部腫瘍を扱っています。中でも私は唾液腺(耳下腺の腫瘍など)、甲状腺の手術を数多く手がけています。こういった手術では、近くを走る顔面神経や反回神経を温存するために緻密な技術が求められます。そこで神経モニタリングを積極的に導入し、安全かつ精密な手術の実現に取り組んでまいりました。加えて4年前より頭部手術で外視鏡ORBEYE®を採用し、内視鏡と顕微鏡の長所を併せ持つ先進的な機器を取り入れ全国でも有数の実績を築いています。

当科では現在、光免疫療法、睡眠時無呼吸症候群(SAS)治療にも注力しています。光免疫療法では、近赤外線イメージングにより新しい治療効果の評価を進めており、治療成績向上を

### 先進的な術式・治療法を積極的に導入し、 安全かつ個別性のある医療を提供しています

目指しています。またSAS治療では舌下神経刺激装置による治療を大阪府下で唯一提供しており、CPAP療法との組み合わせや歯科との連携による口腔内装置の導入など患者さんに多様な治療選択肢を提供しています。また補聴器医療では言語聴覚士と連携して調整や指導を行い、患者さんの満足度向上を目指しておりますので、もし先生方のお困りの患者さんがいらっしゃればお声がけください。

高齢化が進む現在、聴覚障害、嚥下障害、平衡障害といった当科の診療領域はますます重要性を増しています。今後は地域医療機関との連携をさらに強化し、患者情報の共有やフィードバックをより効率的に行うシステム構築を模索してまいります。あわせて嚥下評価デバイスの開発、平衡機能検査および治療体制の整備、補聴器装置の推進など診療技術の向上を図ってまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

## Profile

- 1995年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1995年5月 関西医科大学 耳鼻咽喉科 入局
- 1997年4月 米・ミシガン大学クレスグ聴覚研究所 Research Fellow
- 1999年10月 関西医科大学 耳鼻咽喉科 研究員
- 2000年11月 河内総合病院 耳鼻咽喉科 副院長
- 2004年1月 関西医科大学 耳鼻咽喉科 助手
- 2007年4月 医仁会武田総合病院 耳鼻咽喉科 医長
- 2012年9月 医仁会武田総合病院 耳鼻咽喉科 部長
- 2013年4月 関西医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師
- 2019年1月 関西医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授
- 2025年4月 関西医科大学附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任教授

## インタビュー特集

# KEY-PERSONに聞く。

関西医大グループの各附属医療機関で診療の最前線に立つ医療従事者から、新任主任教授・診療部長・診療科長を中心にKEY-PERSON=カギを握る人物をピックアップ。現在取り組んでいることや得意な治療・領域、これからの展望など、語っていただきました。

### ■ 附属病院

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任教授  
スポーツ医学センター センター教授

八木 正夫  
山門 浩太郎

### ■ 総合医療センター

脳神経外科 教授 脳卒中センター センター長  
糖尿病センター長  
上部消化管外科 診療部長 腹部ヘルニア・機能外科センター長  
心臓外科 診療部長

吉村 晋一  
豊田 長興  
齊藤 卓也  
岡田 隆之

### ■ 香里病院

内科部長  
眼科 医長  
皮膚科 医長

塚口 裕康  
前田 敦史  
四十万谷 貴子

### ■ くずは病院

整形外科 助教

山下 裕己

作業療法士 平岡 あかね 理学療法士 今田 尚希  
作業療法士 吉見 円花 理学療法士 山口 拓郎  
理学療法士 金澤 俊介

### ■ 天満橋総合クリニック

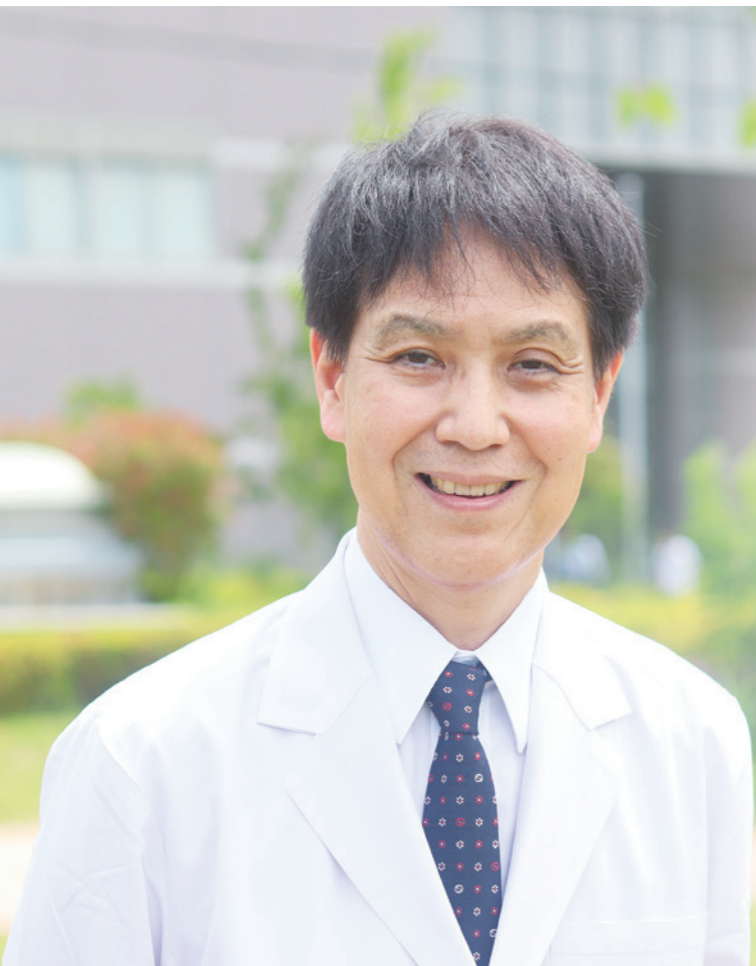
眼科 医長

高橋 彰子

### ■ くずは駅中 健康・健診センター

メディカル・フィットネス部門長・理事長特命教授

木村 穂



New Professor Interview

脳神経外科  
新任部長に聞く

関西医科大学総合医療センター  
脳神経外科 教授  
脳卒中センター センター長

吉村 晋一

Yoshimura Kunikazu



検査から手術、術後のケアまで一貫して関わることになり、脳神経外科の道を歩んでまいりました。研修時代よりカテーテルによる脳血管内治療や顕微鏡手術など、当時国内ではまだ広く普及していなかった技術に触れる機会に恵まれ、しだいに脳血管障害領域への関心を深めてスミス・チューリッヒ大学へ留学。現地では脳神経外科での顕微鏡手術だけでなく神経放射線科における脳血管内治療など多くを学び、帰国後は開頭手術と血管内治療の双方から脳卒中診療に取り組んでまいりました。

今回約20年ぶりに滝井の地に戻ってこれたご縁に改めて初心を思い出し、身の引き締まる思いです。地域に根ざしながらも専門性の高い医療を提供できる当院において、新たな貢献の機会を模索してまいります。

現在、外科的治療に加えて注力しているのが未破裂脳動脈瘤の予防的治療です。くも膜下出血を発症すると、約3人に1人しか社会復帰が叶わない現実があり、患者さんのQOLを守るには予防治療の普及が欠かせません。私はこれまで開頭術や最新の血管内治療を用い、安全性と確実性を重視した予防治療を提供してまいりました。またこうした診療の中で成人もやもや病、硬膜動脈静脈瘤、脳動脈奇形、血栓化動脈瘤といった希少疾患の診療にも積極的に取り組み、附属病院で豊富な実績を重ねてまいりました。これらの経験を生か

Profile

- 1992年3月 関西医科大学 卒業
- 1992年6月 関西医科大学附属病院 脳神経外科 研修医
- 1997年3月 関西医科大学大学院 脳神経外科 博士課程 修了
- 1997年4月 関西医科大学 脳神経外科学講座 助教
- 1999年1月 新宮市立市民病院 脳神経外科 医長
- 2002年1月 スイスチューリッヒ大学 脳神経外科 クリニカルフェロー
- 2007年4月 関西医科大学 脳神経外科学講座 講師
- 2012年4月 関西医科大学 脳神経外科学講座 准教授
- 2014年4月 関西医科大学附属病院 病院教授
- 2022年4月 関西医科大学附属病院 脳神経外科 脳血管外科 科長
- 2025年4月 関西医科大学総合医療センター 脳神経外科 部長、脳卒中センター センター長
- 2025年5月 関西医科大学 脳神経外科学講座 准教授  
関西医科大学総合医療センター 診療教授



Speciality Service Interview

スポーツ医学センター  
新任センター教授に聞く

関西医科大学附属病院  
スポーツ医学センター センター教授

山門 浩太郎

Yamakado Kotaro

スポーツ医療の地域拠点をめざし、アマチュア競技者からプロ選手まで実績をもつ専門家集団が担当します

この春、関西医科大学のスポーツ医学センターに新たに着任した山門と申します。当センターはスポーツ障害や外傷の治療に特化した整形外科の内部分局です。齋藤貴徳副院長の主導のもと「地域にスポーツ医療の拠点を」と創設された組織であり、スポーツ愛好家からプロレベルの選手まで、競技やレベルを問わず障害や外傷の治療を専門としています。スタッフには肩・膝・足の関節に精通した専門家が集っており、プロスポーツチーム（野球の東北楽天ゴールデンイーグルス、サッカーの湘南ベルマーレなど）や日本代表チーム（バレーボール、フットサルなど）のメディカルサポート担当として活動する医師、理学療法士、アスレチックトレーナーで構成。全国レベルの組織だけでなく地域のスポーツチームへの支援も予定しており、スポーツ障害やコンディショニングなど日常的に発生する医学的な問題への対応には地域の他医療機関と連携しつつ、より包括的なサポート体制を構築していくことを目指しています。私は現場責任者としてセンターの環境整備を進めております。我々を必要とされる患者さんがいらっしましたら、ぜひ当院整形外科にお声がけください。

私自身は肩関節外科を専門に持ち、これまで臨床医として診療・研究活動を行うとともに、手術指導や資格認定に携わってきました。特に2014年に導入されたリバーシ型人工肩関節置換術の資格認定制度においては学会ガイドラインの改訂に参画し、その後長く運用委員会の委員長を務めた経験があります。加えて腱板断裂の関節鏡視下手術を多く手がけており、前職では年間300件ほど実施し

全ての脳血管障害に対応。未破裂脳動脈瘤の予防的治療、希少疾患の治療も強化していきます

し、当院でも予防的治療および希少疾患の治療を強化していく所存です。

また現在、脳卒中センターのセンター長として、急性期脳卒中の診療体制強化にも取り組んでおります。救命センターとの緊密な連携により、重症例を含めあらゆる脳血管障害に対応できる点が当センターの強みですが、さらに迅速に高度な医療を提供できるよう改善を重ねてまいります。患者さんやご家族に「ここで診てもらいたい」と信頼していただける診療科を目指しつつ、急性期から回復期・慢性期にいたるまで、地域全体で切れ目のない医療を支える仕組みを構築すべく尽力してまいりますので、ぜひご注目ください。

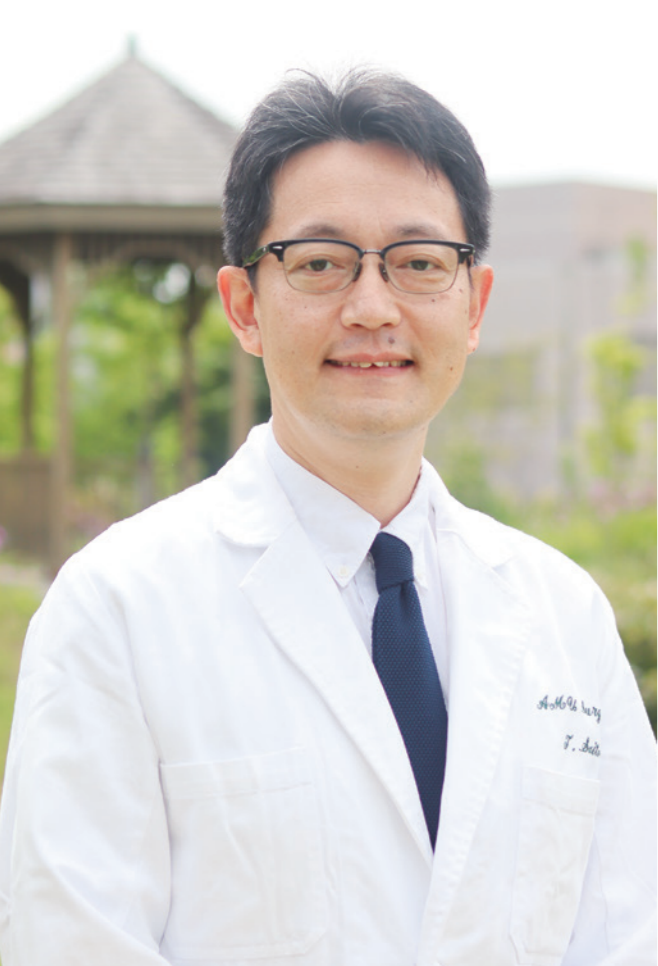
Profile

- 1994年3月 金沢大学医学部 卒業
- 1994年4月 金沢大学附属病院 整形外科 研修医
- 1995年4月 富山県立中央病院 研修医
- 1995年7月 富山県済生会高岡病院 整形外科 医員
- 1996年4月 金沢大学 医学系研究過程 入学
- 1997年10月 石川県済生会金沢病院 整形外科 医員
- 2000年10月 河北中央病院 整形外科 医長
- 2002年12月 金沢大学 医学系研究過程 修了
- 2002年2月 米国Advanced Orthopaedic Centers (Richmond, VA). Clinical fellow
- 2003年1月 金沢大学附属病院 整形外科 医員
- 2003年8月 石川県済生会金沢病院 整形外科 医長
- 2005年7月 福井総合病院 医長
- 2012年4月 福井総合病院 スポーツ整形外科 部長
- 2025年4月 関西医科大学附属病院 スポーツ医学センター センター教授



スタッフ集合写真  
左から 佐竹勇人 センター助教・鈴木大 助教・永元英明 センター准教授・山門浩太郎 センター教授・勝谷洋分 センター講師・井上純雨 センター助教

ていました。現在は当院での診療に加え、週1回くずは病院でも外来を担当しています。整形外科の治療、とりわけ手術を伴うケアではリハビリが担う役割とても大きなものです。しかし現在 附属病院では外来リハビリを提供しておりません。患者さんに地域の先生のもとへ安心してお帰りいただくためにも、病診連携は非常に重要な点とらえています。ぜひこれから勉強会などの機会を通じ、顔の見える関係を築いていきたいと考えておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。



New Professor Interview

## 上部消化管外科 診療部長に聞く

関西医科大学総合医療センター  
上部消化管外科 診療部長  
腹部ヘルニア・機能外科センター長

### 齊藤 卓也

Saito Takuya

「命を守る外科」と  
「生活を支える外科」を  
2本柱に、地域とつながる  
「笑顔」の医療を目指して

上部消化管外科診療部長ならびに腹部ヘルニア・機能外科センター長を拝命し、25年ぶりに母校である関西医科大学へ戻ってまいりました。学生時代に「心身一如」の理念に共感し、心身医学講座に入局後、一般病院で研修医として診療にあたる中で外科治療に魅力を感じ、外科の道に進みました。心身医学の考え方を生かしながら外科医として「助かる命を確実に助けること」「苦痛を少しでも軽くすること」「真剣に取り組み、腹腔鏡およびロボット支援手術による低侵襲治療を中心に患者さんに寄り添う医療を追求し続けてまいりました。現在は、上部消化管がんと腹部ヘルニアなど

機能改善の外科領域を診療の柱としています。がん外科の最大の使命は、今も昔も「命を守る」ことです。一方、近年の高齢化や慢性疾患の増加に伴い、患者さんの「生活の質を支える」外科も非常に重要になってきました。そこで、前職での経験を生かし、当院で2025年春に「腹部ヘルニア機能外科センター」を創設しました。鼠径部・臍・腹壁痕などのあらゆる腹部ヘルニアに加え、逆流性食道炎、高度肥満症といった疾患を対象に専門的な外科治療を提供しています。ありがたいことに開設以来すでに多数の患者さんをご紹介いただいております。大病院の総合力を活かし、肥満や持病をお持ちの方や専門的な治療を要する複雑な症例(再発や巨大例など)にも対応することにも、当院ならではのメンタルサポート体制も整えております。お困りの患者さんがいらっしやれば、ぜひご紹介ください。

私の医師としての信条は、目の前の患者さんが本当に必要とすることを第一に考え、がん・良性疾患を問わず、丁寧な治療を提供することです。縁あって生まれ育った地へ戻ってきたからには、この信条を胸に、まずはこの地域の医療へ貢献したいと強く思っています。今後は多職種によるサポート体制を整え、「患者さんへ選ばれる外科」「笑顔を届けられる外科」の実現に邁進してまいります。将来的には、この「腹部ヘルニア・機能外科センター」を本邦トップレベルへと育てたいと考えています。

地域のクリニックの先生方との連携も、これまで以上に密にしていきたいです。情報発信や訪問活動はもちろん、地域連携パスも積極的に活用していきますので、ぜひご期待ください。

## Profile

- 2001年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 2001年4月 関西医科大学 心身医学講座 入局、京都第二赤十字病院 臨床研修医
- 2003年4月 京都第二赤十字病院 外科 修練医
- 2006年4月 愛知県がんセンター病院 消化器外科 レジデント
- 2008年4月 愛知県がんセンター病院 消化器外科 シニアレジデント(食道外科)
- 2010年4月 大阪府済生会泉尾病院 外科 副院長
- 2014年4月 大阪府済生会泉尾病院 外科 医長
- 2015年4月 愛知医科大学 消化器外科学講座 助教
- 2015年7月 名古屋大学大学院 医学研究科短縮修了 博士号(医学)取得
- 2017年1月 愛知医科大学 消化器外科学講座 講師
- 2023年4月 愛知医科大学 消化器外科学講座 准教授(特任)
- 2025年4月 関西医科大学 上部消化管外科学講座 准教授  
関西医科大学総合医療センター 上部消化管外科 診療部長  
兼 腹部ヘルニア・機能外科センター長、愛知医科大学 医学部 非常勤講師

### 外科とセンターの両輪で 患者さんに笑顔を届ける診療を目指します



Speciality Service Interview

## 糖尿病センター センター長に聞く

関西医科大学総合医療センター  
糖尿病センター長

### 豊田 長興

Toyoda Naoki

「命を守る外科」と  
「生活を支える外科」を  
2本柱に、地域とつながる  
「笑顔」の医療を目指して

糖尿病はわが国の成人人口の約5人に1人が罹患しているとされる極めて頻度の高い疾患であり、甲状腺疾患を併発している方が少なくありません。慢性甲状腺炎やバセドウ病、あるいは腫瘍性病変といった甲状腺疾患は糖尿病の背景に潜むこともあり、両領域を横断的に診ることはとても重要です。これまで私は、糖尿病に加え甲状腺疾患を

## 糖尿病センター & 肥満症治療外来を新設。 今、糖尿病診療は新時代の幕開けを迎えています

はじめとする内分泌疾患にも専門的に取り組み、患者さん一人ひとりの全身状態を捉えた診療に努めてまいりました。その横断的診療の経験を生かすべく、2025年春に新設したのが当院の糖尿病センターです。糖尿病は三大合併症(網膜症・腎症・神経障害)に加え、狭心症や脳梗塞、足壊疽などの血管障害にも深く関与し全身に影響を及ぼす疾患です。加えて糖尿病の陰に内分泌疾患が隠れていることも少なくありません。当センターでは眼科・腎臓内科・循環器内科・血管外科・産婦人科・形成外科・上部消化管外科・歯科など複数の診療科が連携し、横断的かつきめ細やかな診療を提供しています。

近年、糖尿病の診療内容は大きく進化しています。従来は指先からの採血で血糖を測定していましたが、現在は腕に小型機器を装着して24時間連続で血糖を測定できる「持続血糖測定機器」が普及しつつあり、当院でも多くの患者さんにこの機器をご活用いただいています。また1型糖尿病の患者さんなどに対しては持続血糖測定とインスリンポンプを組み合わせたSAP療法センサー付きポンプ療法)など最新の治療法も積極的に取り入れています。さらに、これらの体制強化を背景に、8月より肥満症治療外来を新たに開設しました。2024年末より使用可能となったインクレチン製剤を用いた治療を行う専門外来で、糖尿病患者を中心に、医療的サポート

が必要な肥満症の方の治療に取り組んでいきます(※)。  
今回のセンター設立と外来の新設により、糖尿病および内分泌疾患の患者さんをより幅広く、より丁寧を受け入れる体制を整えました。地域の先生方にとって、専門的治療が必要な患者さんを気軽に相談いただける診療科となるべく努力してまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

※肥満症治療外来でのインクレチン製剤使用にあたっては、かかりつけの医療機関からの紹介と、薬剤使用開始前の6カ月間の減量プログラムに参加いただく必要があります。

## Profile

- 1985年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1985年5月 関西医科大学 研修医
- 1986年5月 関西医科大学 第二内科 研修医
- 1992年3月 関西医科大学大学院 医学研究科 博士課程卒業
- 1992年4月 米・Harvard大学 医学部・Brigham and Women's Hospital留学
- 1996年4月 関西医科大学 内科学第二講座 助手
- 2002年4月 関西医科大学 内科学第二講座 講師
- 2009年10月 関西医科大学 内科学第二講座 准教授
- 2014年4月 関西医科大学 内科学第二講座 診療教授
- 2025年4月 関西医科大学総合医療センター 糖尿病センター センター長

予防効果の高い紹介のタイミング

CKD ステージ	ステージ1 ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5
推定eGFR	>90 89-60	59-30	29-15	<15
腎臓の働きの程度				
蛋白制限			0.9-1.2g/日	
その他			カリウム制限 貧血治療	

KMU 腎センター資料

New Manager Interview

## 内科・総合診療科 新任部長に聞く



関西医科大学香里病院  
内科部長

塚口 裕康

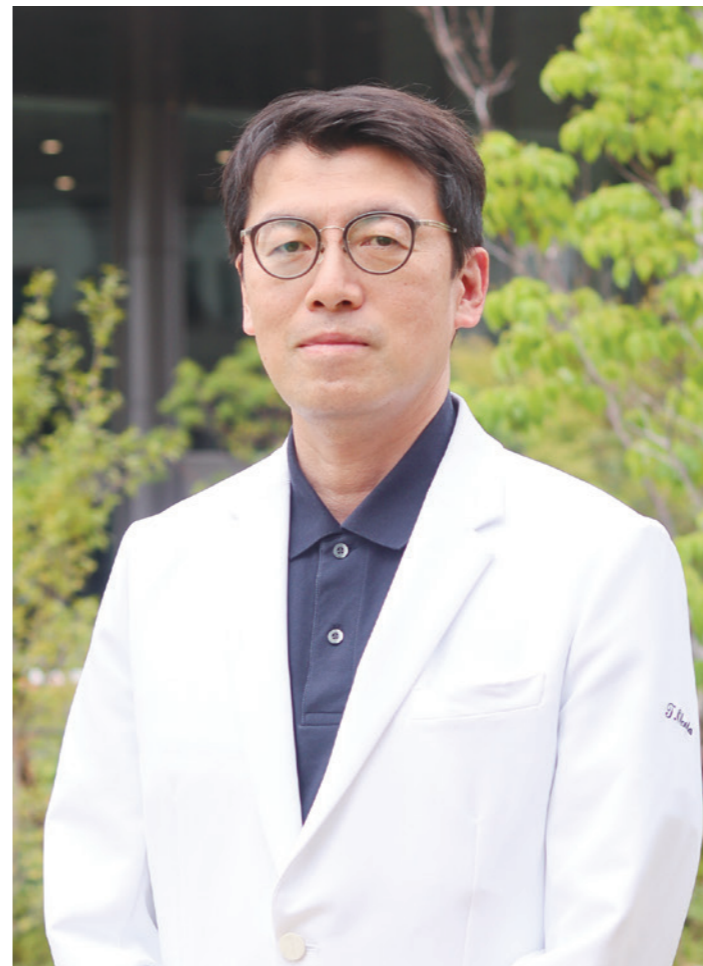
Tsukaguchi Hiroyasu

### 多職種チームで腎疾患の 早期治療と予防の定着に 取り組み、地域医療に 携わる皆さまと歩みたい

腎臓病学を専門とし、このたび5月より香里病院の内科部長を拝命した塚口と申します。腎疾患の診療においては早期の発見治療そして何より予防が非常に重要です。現在、わが国では国民の約8人に1人が慢性腎臓病(CKD・Chronic Kidney Disease)とされ、将来的に末期腎不全へと進行するリスクを抱える、いわゆる「透析予備軍」と考えられます。CKDは心血管疾患や脳血管障害などの重篤な合併症を引き起こす可能性が高く、生命予後や健康寿命、日常生活活動

### 心不全を未然に防ぐ次世代型ハートチーム構築へ。 見逃さない・見捨てない心臓医療を提供する 地域連携アクションモデルをつくりたい

この春より心臓外科は新体制へと移行いたしました。「地域と未来をつなぐ心臓外科診療」を掲げ、地域に根ざした新たな診療モデルの構築に着手しています。これまでも循環器内科・血管外科・集中治療チーム・リハビリテーション部門と密に連携し、心臓弁膜症や狭心症、心筋梗塞、大動脈疾患といった幅広い心疾患に対応してきましたが、加えて小切開で行う低侵襲手術(MICS)やカテーテル治療と外科手術を組み合わせたハイブリッド手術な



関西医科大学総合医療センター  
心臓外科 診療部長

岡田 隆之

Okada Takayuki

ど、安全性を最優先に身体的・社会的な回復を同時に支える選択肢を積極的に導入しています。慢性肺血栓塞栓症(CTEPH)やマルファン症候群といった希少・遺伝性疾患にも対応し、検査から治療まで横断的なチームでサポートする体制を整えています。人員の拡充で受入体制を強化したほか、枚方の附属病院との連携による専門的診療、地域に密着した柔軟な対応を両立させつつ、術後はご紹介元の医療機関にお帰りいただく100%逆紹介を実現する流れを徹底しており、これまで以上に安心してご相談いただける環境を自負しております。

さて高齢化が進む中、近い未来に私たちが直面するであろう大きな課題が心不全パンデミックです。これから心不全患者のさらなる増加が見込まれますが、心不全は弁膜症や虚血性心疾患などの終末像であり、その進行を抑えるためには医療機関の枠を越えた地域連携が欠かせません。そこで当科では、症状が顕在化する前に疾患を拾い上げ、適切なタイミングで外科的介入を行う体制の整備を始めました。心臓外科が中心となり、地域全体を支える「次世代型ハートチーム」として心疾患の予防から治療、回復まで一貫して担う新たなモデルの確立を目指しています。息切れや倦怠感、むくみなど見逃されがちな初期症状を見極めるスクリーニングを強化し、地域の皆さまとの連

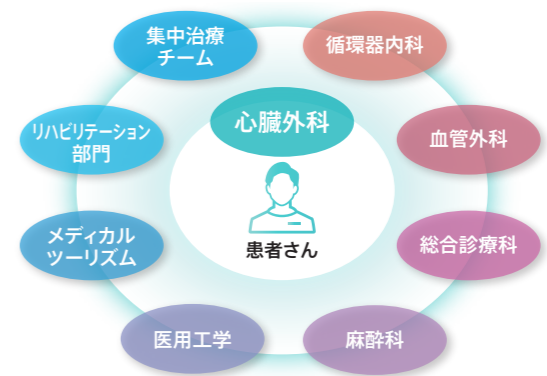
(ADL)に大きな影響を及ぼします。全世界的にもCKD患者の増加は深刻な課題となっており国際的にもさまざまな予防策や治療開発が進められています。

さて、CKDは糖尿病や高血圧といった生活習慣病に由来することが多く、言い換えれば早い段階から適切な食事療法や運動療法を実践することで病気の進行を防ぐことが可能です。特に初期の段階であれば腎臓の病変や尿たんばくが消失するケースも少なくありません。しかしながら難しいのは、CKDは初期にはほとんど症状が現れず自覚しづらい点です。このため約2割の方が治療の機会を逸している現実があります。このような状況に鑑みると定期的な検診の大切さを周知するとともに、腎臓害の進行を予防するための生活指導を継続的に提供していく体制が必要となります。

そこで当院の外來では医師をはじめ、看護師や管理栄養士といった多職種が一つのチームとなり、患者さんの生活背景に寄り添った生活習慣病の管理・支援を行っています。私達の腎臓科チームのミッションは、地域医療に携わる皆さまとの連携の構築です。CKDの治療は長期にわたる継続が求められます。また当院での専門的な診療と地域のかかりつけ医や病診との協働することにより、早い段階から患者さんのフォローが可能となると考えております。今後はぜひ地域に向けた情報発信なども積極的に取り組んでまいりますので、ぜひお見知りおぎください。今後も地域の医療従事者の皆さまと協力しながら、地域の健康を守り、育むための取り組みを重ねてまいります。

携による早期紹介の仕組みを構築したいと考えています。  
これからの「見逃さない・見捨てない」を信条に、北河内エリアで地域と未来をつなぐ心臓外科医療を追求してまいりますので、よろしくお願いたします。

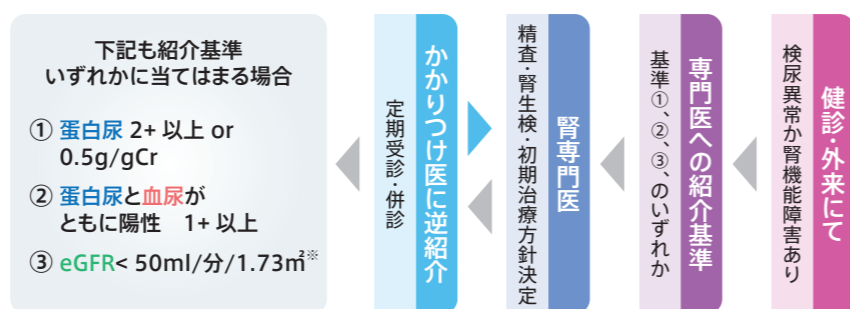
### 心臓外科では各部門と密に連携し 検査・診察から治療、術後ケアまで対応します



## Profile

- 1993年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1999年4月 関西医科大学附属病院 研修医
- 2001年4月 関西医科大学 胸部心臓血管外科学講座 医員
- 2003年7月 マレーシア国立循環器センター 臨床留学
- 2005年9月 関西医科大学 医学部 心臓血管外科学講座 助手
- 2007年4月 関西医科大学 医学部 心臓血管外科学講座 助教
- 2010年9月 ドイツ・ハイデルベルグ大学 心臓外科 臨床留学
- 2014年4月 関西医科大学 医学部 心臓血管外科学講座 講師
- 2022年4月 関西医科大学 医学部 心臓血管外科学講座 准教授
- 2025年4月 関西医科大学総合医療センター 心臓外科 診療部長

## CKD連携 紹介基準



※ eGFR は年齢も考慮し、40歳未満はGFR 60 未満、70歳以上はGFR 40 未満とする。(CKD診療ガイド2012に準じて作成)

## Profile

- 1988年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1988年5月 関西医科大学附属病院 研修医
- 1990年5月 財団法人天理よろず相談所病院 医員
- 1995年8月 米・ハーバード大学 医学部 博士研究員
- 2000年6月 米・ハーバード大学 医学部 インストラクター
- 2001年5月 徳島大学 医学部 病態情報診断学 助手
- 2004年4月 徳島大学大学院 ヘルスパイオサイエンス研究部 腎臓内科 助手
- 2008年4月 関西医科大学附属岡山病院 内科 助教
- 2012年4月 関西医科大学附属滝井病院 第二内科 講師
- 2013年4月 関西医科大学附属枚方病院 腎臓内科 科長
- 2021年4月 関西医科大学附属病院 腎センター センター長
- 2025年5月 関西医科大学香里病院 内科・総合診療科 内科部長



Doctor Interview

## 皮膚科 新任医長に聞く

関西医科大学香里病院  
皮膚科 医長

### 四十万谷 貴子

Shijimaya Takako

医師の道を志したのは、幼い頃に再生不良性貧血を患い、長期の入院生活から医療に関心を持ったことがきっかけでした。手技を生かせる診療科であったこと、自分の生き方や価値観に合っていると感じたことから皮膚科を選択。現在は医師として、また一人の母として、日頃の経験を診療の中で少しでも還元できるように努めています。

前任地の総合医療センターでは皮膚科全般の診療を担当しておりました。アトピー性皮膚炎をはじめとする頻度の高い皮膚疾患から、乾癬や足壊疽といった難治性の疾患まで幅広い症例を通じて経験を重ねてまいりました。特に多く携わったのが皮膚の悪性腫瘍です。当院では抗がん剤治療は行っておりませんが、良性/悪性の診断に迷われるような患者さんがいらっしゃれば診断が可能ですし、系列病院と治療連携できますので、ご相談いただければ幸いです。診療では病理組織学的な根拠に基づいた正確な診断と、それに即した治療の提供を大切にしています。お話を丁寧に向い、その方にとって最善の治療法をご提案し、一人でも多くの患者さんに皮膚科の通院を卒業していただけるよう尽力しています。

当院皮膚科の特徴としては、白斑や円形脱毛症に対するエキシマレーザー治療(紫外線療法)を導入している点が挙げられます。この治療機器を備える医療機関は限られており、遠方から通院される方も少なくありません。ま

## Profile

- 2014年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 2020年9月 関西医科大学総合医療センター 皮膚科 助教
- 2025年4月 関西医科大学香里病院 皮膚科 医長

## 地域との連携を強化し、個々に適した通院スタイルと 選択肢のある専門的な治療を届けたい

た最近では円形脱毛症に対する新しい内服薬が普及しつつあるため、レーザー治療などを含め患者さんの症状や生活スタイルにあわせて治療法を選択していただけます。

医長としての今後の目標は、患者さんの負担を少しでも軽減できる仕組みづくりです。たとえばアトピー性皮膚炎の患者さんについて、症状の安定後は地域の皮膚科で定期受診していただき、当院は数カ月おきに経過を確認する。またJAK阻害薬などの導入は、当院で行い、その後のフォローアップを地域の先生方にお任せするなど、当院が持つ専門性と地域医療のならではの身近さ・親しみやすさ、診療時間の利便性を両立させた体制づくりを目指したいと考えています。患者さんに寄り添い、地域の先生方と連携し、より良い診療を実現してまいりますので、よろしくお願いたします。

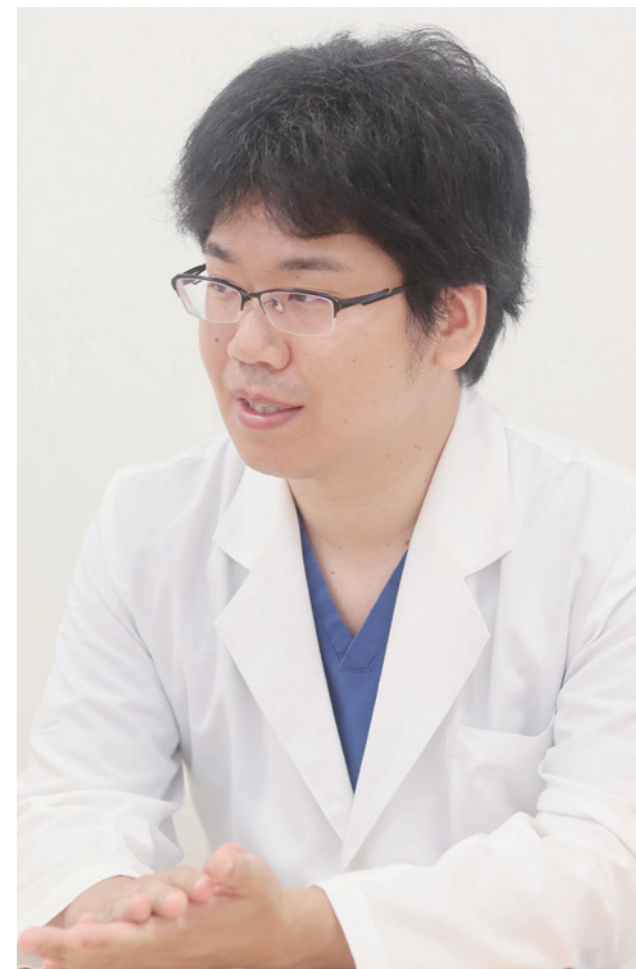
Doctor Interview

## 眼科 新任医長に聞く

関西医科大学香里病院  
眼科 医長

### 前田 敦史

Maeda Atsushi



## 緑内障の先進的な低侵襲手術を提供中。 患者さんをもっとお任せいただけるよう 診療体制を強化しています

このたび香里病院眼科医長に着任いたしました前田と申します。2014年に眼科の道に進み、以来11年にわたり白内障や網膜硝子体疾患、斜視・弱視など幅広い分野に携わってまいりました。中でも前任地の総合医療センターでは緑内障診療を専門とし、診断から治療、手術に至るまで一貫した対応を行ってまいりました。診療で何より大切にしているのは患者さんとの信頼関係です。特に緑内障のような慢性疾患では、一度の治療で終わることはなく長い時間を共に過ごすことになりま

さて、緑内障は40歳以上のおおよそ20人に1人が罹患しているとされ、完治することは難しく生涯にわたって病気と向き合っていく必要があります。そのため治療では視野障害の進行を抑え、可能な限り視力を保つことが目標となります。そんな中において近年は手術器具や医療技術の進歩により、低侵襲で安全性の高い手術が可能となってまいりました。当院ではすでに「プリザーブド®マイクロシャント」を用いた緑内障濾過手術を導入しており、加えて現在は「i-stent®手術」の実施に向けた準備も進めております。引き続き患者さんにとって身体的・心理的な負担の少ない医療を提供すべく、設備と体制の充実に努めてまいります。

考えておりますのでお見知りおきください。他にも香里病院眼科では白内障や網膜疾患、視神経疾患、ぶどう膜炎など幅広い領域を対象に診療を行っております。手術に関しては白内障・緑内障・硝子体手術、各種レーザー治療など行っており、白内障手術は日帰り・入院いずれにも対応しています。ご紹介いただいた患者さんについては原則として逆紹介を徹底し、当院での専門的な治療後に症状が安定された折には再び地域医療へとお帰りいただいているほか、必要に応じて併診もご提案しております。

今後は網膜症や小児の斜視など対象疾患の幅を広げ、さらに力強く地域医療の一翼を担うべく尽力してまいります。そして当科からの情報発信はもちろん、懇親会や勉強会を通じてクリニックの先生方のご要望やお考えなどもぜひ拝聴したいと考えておりますので、よろしくお願申し上げます。

## Profile

- 2012年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 2012年4月 関西医科大学附属病院 初期研修医
- 2014年4月 関西医科大学附属病院 眼科
- 2015年4月 兵庫県立尼崎総合医療センター 眼科
- 2017年4月 関西医科大学総合医療センター 眼科
- 2022年4月 関西医科大学総合医療センター 眼科 教育医長・医局長
- 2024年4月 関西医科大学総合医療センター 眼科 外来医長
- 2025年4月 関西医科大学香里病院 眼科 医長

患者さん一人ひとりと同じ目線に立ち、  
目のお悩みに真摯に向き合って

二人三脚の医療を目指します

緑内障

白内障

網膜  
硝子体  
疾患

斜視  
弱視

……など幅広く診療にあたってまいりました。  
症状の安定しない患者さんがいらっしゃればご紹介ください。

# 肩関節外来を支える リハビリテーションスタッフ



関西医科大学くずは病院では、2025年4月よりスポーツ医学センター 山門教授を中心とした「肩関節外来」をスタートしました。肩関節外来では従来以上に専門的かつ多角的な医療を提供することが可能となり、アスリート選手からスポーツ愛好者、高齢者の方々まで幅広い患者層に対応しています。この新しい診療体制を支えているのが理学療法士(PT)や作業療法士(OT)をはじめとするリハビリテーションスタッフであり、初診時の評価や術後のフォローアップ、投球障害への対応に至るまでチーム医療の一員として重要な役割を担っています。今回は肩関節外来のPT・OTより、外来の強みやポイントをご紹介します。

## 不安なく日常に戻っていただきたい



作業療法士  
**平岡 あかね**  
Hiraoka Akane

### Profile

- 2021年3月 広島国際大学 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 卒業
- 2021年4月 関西医科大学くずは病院 リハビリテーションセンター 入職

お一人おひとりの状態や気持ちに寄り添いながら、その方らしい生活へ安心して戻っていただけるよう心を込めて関わってきました。入院中の患者さんには、食事や更衣、夜間の安眠といった日常生活に必要な動作と一緒に確認しながら、退院後の生活を見据えた支援を行います。術後早期では、組織の治癒を妨げないよう配慮しつつ、関節のこわばりや筋力低下をできるだけ防ぐことが重要です。たとえば腱板修復術後であれば、修復腱に過度な負荷がかからない姿勢を保ちながら、慎重な介入を実施。他動による可動域訓練は医師の指示に基づいて適切な範囲で開始し、肩甲帯や体幹のバランスを整えるアプローチも早期から取り入れます。また術後の痛みや不安に寄り添うことも私たち作業療法士の大切な役割の一つです。痛みに対する不安が強く出やすい時期だからこそ「動かしなくても大丈夫」と感じていただけるよう、丁寧な声かけと分かりやすい説明を心がけています。

### ヒトコト

入職以来、急性期病棟で肩関節領域に携わってきました。近年、新しい手術も増えているため、効果的な治療とリハビリの導入をこれからも追求していきたいと思えます。

## チーム一体で安心を提供したい

肩関節外来において、私たち作業療法士は手術を受けた患者さんと関わる機会が多くあります。術式や画像所見、術後の安静期間など、治療の流れを正しく理解するためには医師との密な連携が欠かせません。そのため私たちは常に情報共有を大切にしながら、リハビリの方針をすり合わせています。術後は回復の段階ごとに目標を明確にすることを重視し、再発を防ぐための動作や生活の工夫についてもチームで相談。放射線技師や看護師、義肢装具士の方々とともに細やかに連携し、患者さん一人ひとりが安心して日常生活に戻れるよう心を入れて支援しています。私自身まだまだ学ぶことの多い毎日ですが、作業療法士として少しでも患者さんの心に寄り添える存在でありたいと願いつつ、日々のリハビリに取り組んでいます。

### ヒトコト

作業療法士を志したのは、私自身の入院経験がきっかけでした。患者さんが抱える日常復帰への不安に共感できる立場として、その懸念を和らげられるよう努めています。



作業療法士  
**吉見 円花**  
Yoshimi Madoka

### Profile

- 2024年3月 佛敎大学 保健医療技術学部 作業療法学科 卒業
- 2024年4月 関西医科大学くずは病院 リハビリテーションセンター 入職

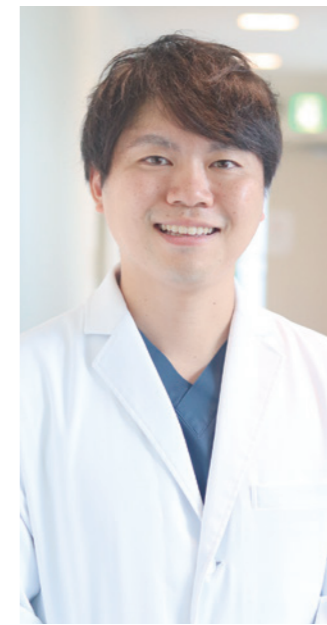
## Doctor Interview

# 整形外科 新任医師に聞く

関西医科大学くずは病院  
整形外科 助教

**山下 裕己**

Yamashita Yuki



## 膝関節でお困りの患者さん、 保存加療で改善が見られない方に 最適な治療をご提供します

昨年度までは枚方の附属病院に所属しつつ当院で週1回外来を担当しておりましたが、このたびくずは病院の常勤医となり、より地域の皆さまに近い立場で診療にあたることとなりました。着任以来すでに多くの先生方から患者さんをご紹介いただいております。改めて感謝とごあいさつ申し上げます。  
私は交野市出身で、大学卒業後に地元地域の医療に貢献したいと大阪に戻ってまいりました。以来、北河内の医療に貢献できたいことを嬉しく思っています。専門は整形外科、中でも膝関節の



手術風景

## Profile

- 2017年3月 鳥取大学医学部医学科 卒業
- 2019年4月 関西医科大学附属病院 整形外科 入局
- 2019年4月 マックシール翼病院 骨折治療センター 骨折治療センター
- 2020年4月 明治橋病院 整形外科
- 2021年4月 関西医科大学附属病院 高度救急救命センター
- 2022年4月 関西医科大学附属病院 整形外科 助教
- 2025年4月 関西医科大学くずは病院 整形外科 助教

治療です。膝に注目するようになったのは、外来で膝の痛みを訴える方の多さに驚き、そういった方々の力になりたいと考えたことがきっかけでした。初期には外傷や骨折など一般整形外科領域を幅広く学び、救命センターにて三次外傷の治療を経験。その後、膝関節を専門分野としてからは変形性膝関節症に対する人工関節置換術(TKA・UKA)や若年者の骨の変形に対する骨切術、関節鏡を用いた低侵襲手術まで幅広く携わってまいりました。またスポーツ外傷にも関心が深く、前十字靭帯損傷や半月板損傷に対する手術も数多く経験しております。  
私が診療で心がけているのは、画像検査の結果だけで治療方針を立てることはせず、手術でも保存療法でもその方に合った治療をご提案することです。患者さんが生活の中で何に困っておられるのか、治療を通じてどのような日常を取り戻したいのかといった点を丁寧に伺い、治療を始める時には十分ご納得いただくことを大切にしています。  
現在、当院の整形外科には5名の常勤専門医が在籍しており、患者さんのニーズに応じて専門的な治療を提供できる体制が整っています。ヒアルロン酸注射や薬剤加療など、保存加療で改善が見られない患者さんがいらしたらぜひご紹介ください。また、関西医科大学でスポーツ医学センターが立ち上がりましたが、当院でも定期的に外来診療を行っており、必要に応じて手術加療やリハビリなど専門的な治療をご提供しております。大きすぎない病院ならではの柔軟な対応力を活かし、地域の皆さまに「整形外科に強いくずは病院」と信頼していただけるよう今後も尽力してまいります。



くずは病院内の様子



Doctor Interview

# 眼科 医長に聞く

天満橋総合クリニック  
眼科 医長

## 高橋 彰子

Takahashi Akiko



一生涯の付き合いも多い目の病気。  
近隣の病院との連携を密にしながら  
患者さんに寄り添います

眼科では外来診療と検診を幅広く行っており、特徴は院内の診療科間の連携が密な点です。たとえば糖尿病患者さんの場合、内科と眼科が連携しながら治療にあたり高血圧、甲状腺疾患、眼瞼の皮膚疾患などの患者さんも他科と連絡をとりあい多角的な視点から診療を行っております。

私たちが近年特に注力しているのが、緑内障や加齢黄斑変性の早期発見と継続的なケアです。とりわけ緑内障は40歳以上の約5%が罹患していると考え、加齢とともに増加する疾患でありながら、自覚症状に乏しく気づかれにくいという特性を持ちます。日本における失明原因の第一位であり慢性的に進行するため、生涯にわたって注意深く経過をみていかなくてはなりません。当クリニックはミドルエイジ世代の方が比較的多く訪れるため、緑内障を患う患者さんの割合が多いように感じています。緑内障や加齢黄斑変性などの疾患により視力や視野が悪くなると、そのリスクは読み書きの不自由さにとどまらず日常生活における転倒リスクにもおよびます。平均寿命の延伸が見込まれる現代において、高齢期に視覚障害を抱える方が増える可能性を踏まえ、私たちは日頃から情報発信を含めた予防啓発と診療の両面での取り組みを重ねてまいりました。検診ではOCT検査、眼底三次元画像解析もオプションでご提供しており、より精密な診断が可能です。もしも手術や高度な治療が必要となった場合には、大手前病院様、大阪歯科大学附属病院様、大阪医療センター様、北野病院様をはじめ関西医科大学系列病院など、患者さんのご希望や病

## Profile

- 1989年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1989年4月 関西医科大学 眼科学教室 入局
- 1992年10月 吹田市民病院 出向
- 1993年9月 関西医科大学 眼科 研究医員
- 1998年4月 OMMメディカルセンター  
(現・関西医科大学天満橋総合クリニック) 眼科
- 2024年4月 関西医科大学天満橋総合クリニック 眼科 医長



理学療法士

## 今田 尚希

Imada Naoki

## Profile

- 2021年3月 大阪医専 理学療法学科 卒業
- 2021年4月 関西医科大学くずは病院  
リハビリテーションセンター 入職

### 的確な術前評価で最適な治療方針を

肩関節外来の開設以来、すでに多くのクリニックの先生方から患者さんをご紹介いただき、心よりお礼申し上げます。以前から肩の不調を訴える患者さんはおられました。が、外来開設後は若い方を含め、より多くの方に受診いただくようになりました。当外来の特徴の一つは、術前評価に力を入れている点です。関節の可動性や筋力、動作のパターン、痛みが出る動きなどを丁寧に評価し医師と情報を共有することで、患者さんにとって最適な治療方針を導き出すよう努めています。現在、動作解析や超音波画像などのツールを活用し、より精度の高い評価、ケアを実現すべく設備拡充の準備を進めています。肩の痛みに悩む方々が、必要な治療やリハビリに適切にアクセスできる環境は、まだまだ十分とは言えません。地域に根ざした医療を目指す当院として、今後も一人でも多くの方に寄り添い、質の高い支援を届けられるよう取り組んでまいります。

### ヒトコト

呼吸療法認定士(3学会合同呼吸療法認定士の資格を取得しました。整形外科に付随する領域の知識を増やし、さらに多くの患者さんに適切なケアを提供していきます。

### 投球障害にも対応しています

肩関節外来では、一般的な肩の障害に加え、投球障害にも対応しています。受診される数は多くはありませんが、競技を続ける若年層では肩の痛みや違和感を訴えるケースが一定数見られます。投球障害に専門的に対応できる医師やトレーナーは限られており、地域の先生方には、もしお心当たりの患者さんがいらっしゃれば、当外来へご相談いただけますと幸いです。

私自身、アスリートとしての野球経験者であり、大学で動作解析を学んだ背景もあることから、これまで多くの投球障害を担当してきました。こうした障害は肩だけでなく全身の運動連鎖やフォームの分析が重要です。特に肩甲骨の位置や後方関節包の硬さなど、わずかな可動域の変化が障害の引き金になることもあります。そのため、当外来では肩関節に加えて体幹、股関節、下肢との連動性も含めた総合的な評価を実施。若年層には投球数の管理やセルフケア指導を丁寧に、フォーム修正についても医師・トレーナーと連携しながら、ご本人の納得感を大切に支援を行っています。

### ヒトコト

私自身、けがでアスリート人生を諦めた経験があり、同じような思いをする人を減らしたいと理学療法士になりました。頑張る皆さんの手助けがしたいです！



理学療法士

## 山口 拓郎

Yamaguchi Takuro

## Profile

- 2018年3月 関西医科専門学校 理学療法学科 卒業
- 2022年4月 関西医科大学くずは病院  
リハビリテーションセンター 入職

### 個別性の高い介入を大切にしています

肩関節外来のリハビリでは、評価に基づいた「個別性の高い介入」を特に大切にしています。同じ診断でも患者さんによって症状や痛みの程度、動作の特徴などは異なります。たとえば、腱板断裂のケースを見ても肩甲骨の安定性に課題がある方、上腕骨頭の運動制御に課題がある方、全身の柔軟性が低下している方など背景はさまざま。私たちは解剖学や運動学の知識をベースに、それぞれの原因に合わせたリハビリ計画を丁寧に組み立てることを欠かしません。

また日々のミーティングに加え、月に1度は綿密な全体カンファレンスを実施し、多職種での情報共有、支援の質向上を図っています。患者さんには「自分の体を自分で良くしていく」感覚を持っていただけるよう、セルフエクササイズや日常生活での工夫も積極的にご提案しています。高齢の方では主訴が腰や膝であっても、肩に問題を抱えていることが少なくありません。そうした状況にも丁寧に対応し、全身の負担軽減に繋がりたいと考えています。

### ヒトコト

臨床に出るようになって、肩の痛み苦しむ患者さんの多さに驚き、肩関節のリハビリに深く興味を持ちました。今後より専門性を高め、多くの患者さんのお役に立ちたいです。



理学療法士

## 金澤 俊介

Kanazawa Shunsuke

## Profile

- 2022年3月 藍野大学 医療保健学部  
理学療法学科 卒業
- 2022年4月 関西医科大学くずは病院  
リハビリテーションセンター 入職

### 認知症予防プログラム

ご利用料金

通常月会費 + オプション料金

550円(税込)

対象

・認知症を予防したい方  
・軽度認知障害(MCI)と診断された方

※ 認知症と診断された方はご利用いただけません。  
※ ご利用料金は2025年7月現在のものです。



Speciality Service Interview

## メディカル・フィットネス部門 理事長特命教授に聞く

関西医科大学くずは駅中健康・健診センター  
メディカル・フィットネス部門長・理事長特命教授

木村 稜

Kimura Yutaka



## 脳トレ×運動で認知症を予防

今注目の「デュアルタスク」を盛り込んだ新プログラムが始動しました

### Profile

- 1981年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1981年4月 関西医科大学 第2内科 入局
- 1988年8月 関西医科大学 博士課程 医学博士取得
- 1988年10月 米・コネチカット州立大学 留学
- 1989年11月 カナダ・トロント大学 留学
- 1991年11月 大阪簡易保険総合健診センター 内科医長
- 1997年10月 関西医科大学 第2内科 講師
- 2002年4月 関西医科大学 第2内科 心臓血管病センター 助教授
- 2006年4月 関西医科大学枚方病院(現・附属病院) 健康科学センター センター長
- 2009年4月 関西医科大学 健康科学教室 教授
- 2023年4月 関西医科大学附属病院 健康科学センター 理事長特命教授



けますと幸いです。ただし、認知症と診断された(または診断されている)場合はフィットネス自体にご入会いただけませんので、その点だけご注意ください。

今後、より多様な課題や個別ニーズに対応できるようプログラムの改良を重ねていく予定です。そしてこれからも医療と運動の力を融合させながら、地域の皆さまの健やかな日常をサポートすべく、さまざまなプログラムの開発に取り組んでまいります。

高齢化の進展に伴い、認知症の患者数は年々増加しています。治療薬の開発も着実に進んでいるものの、やはり「認知症にならない」に越したことはありません。中でも極めて重要なのが、軽度認知障害(MCI)の段階での対策であり、近年では運動が認知機能の改善に寄与するという科学的根拠も明らかになってきました。

さて、そういった世情を背景に、このたび当センターのメディカル・フィットネス部門では認知症予防に特化したオリジナルメニュー「認知症予防プログラム」の提供を開始しました。中心となるのは「デュアルタスク」、すなわち運動と脳トレを同時に行う手法です。主にはフィットネスバイクをこぎながら液晶画面上で簡単なゲームや計算問題に取り組み構成となっており、このように運動と知的課題を組み合わせたデュアルタスクは、脳の前頭前野をはじめとする重要な部位を刺激し、認知機能の維持・向上に効果があるとされています。さらに筋肉を動かすことによって分泌されるホルモンは脳の神経細胞の修復にも良い影響を与えることがわかっており、有酸素運動に加えて筋力トレーニングも併せて行うことが推奨されます。当プログラムもその点に配慮し、身体的・認知的な両面からアプローチできるように設計しました。

当センターのフィットネス会員であればどなたでもオプションとしてお申し込みいただける「認知症予防プログラム」。ご利用者のデータはID管理しており、定期的な評価や進捗を可視化する仕組みも整えました。指導は専門の健康運動指導士が担当し、筋力アップに向けた食事指導を受けられる点も当センターならではの強みです。地域のクリニックの先生方におかれましても、MCIが疑われる患者さんや、物忘れが気になる患者さんがいらっしゃればご紹介いたします。